

## 八峰町の地名の由来

地名にはその場所の地形や風土の特徴が由来となっている場合があります。地名の由来は諸説あることが一般的ですが、その土地を観察することで由来について考察することが出来ます。今回は峰浜地区に焦点を当てて地名の由来を紹介していきます。

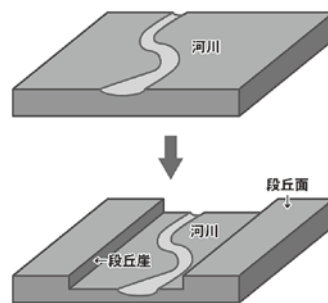
## ● 塙

塙は塙川の上流にある集落で、「花輪」と記述されたこともありました。「ハナワ」は、小高い場所につけられる地名で、東北地方では河岸段丘の土地につけられることが多いようです。

下の図のように、河岸段丘とは土地の隆起と川が削り取る作用によってできる階段状の地形のことです。塙の周囲にも塙川が流れており、河岸段丘の地形になっていきます。塙周辺では、相対的に高い段丘面に住居があり、塙川によって削られた低い土地を水田として活用しています。

河岸段丘と土地の利用の関係

は峰浜地区でよく見られ、特に水沢川に沿って河岸段丘が発達しています。



## ● カッチキ台

化学肥料がなかった時代には、イタドリやタニウツギなどの山野草を水田に敷きこんで堆肥として利用していました。簡易で安価な堆肥として昭和後期まで用いられていたこともありました。カッチキ台の名前の由来はこの山野草を刈り取った場所である「刈敷（かりしき）」から転じたということでした。

また、カッチキ台は名前の通り台地となっており、水はけが良いのが特徴です。そのため、畑作や果樹園に適しており、現在では梨を栽培する農家が多い場所となっています。

## 植物化石などの展示を追加

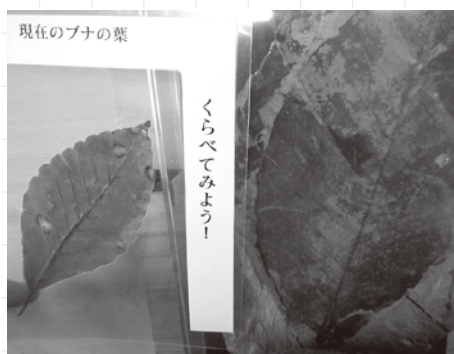
9月にぶなつこランド森林科学館に展示物を追加しました。これまでは、「秋田県の大地」や「白神山地」について学ぶコーナーはありましたが、「八峰町の大地」に特化した展示はありませんでした。そのため、今回の展示では八峰町独自の大地のストーリーに焦点を当て、白山地関連の他の拠点施設との差別化を図りました。また、最新の情報を随時更新していくために、展示は簡単に更新可能なものに仕上げられています。



岩石や化石など約80点の標本を新たに展示しました。

新しい展示は八峰町周辺で採取された岩石や植物化石を時代ごとに展示しています。また、

以前八峰町で採掘されていた石炭などの鉱物資源についても、図と写真を交えながら分かりやすく解説しています。また、標本はただ眺めるだけでなく、触って学べる展示を目指しました。



化石からは当時の堆積環境を調べることが出来ます。

八峰町では約2千万年前に堆積した植物化石が産出します。右の写真は、当時堆積したアンテイホプブナというブナの仲間の葉の化石（右）で、現在のブナの葉（左）と比べることが出来ます。

八峰白神ジオパーク推進協議会

地域おこし協力隊 三輪 拓磨

〒018-2632

秋田県山本郡八峰町八森字三十釜一四四一

ぶなつこランド内

TEL 0185-7713086